

農山村に夢と活力を！ 山奥組のチャレンジは続く



むらの新資源研究会・
山奥組 事務局
井上 謙二

はじめに

私たちのふるさとである農山村地域では、過疎化、少子・高齢化、後継者不足などが深刻な問題です。四国西南の山間部に位置する西予市野村町でもそれは顕著であり、このままでは地場産業の農林業はもとより、農山村集落における人々の生活や地域社会そのものの存在が危ぶまれる状況です。

「平成の大合併」により、自治体の再編・広域化が進めば、条件不利地域である「山奥」は、行政の手も行き届かなくなり、地域の衰退に拍車がかかるのではないかと、こうした危機感から、5町合併で「西予市」が誕生したその2ヶ月後の平成16年6月6日、旧野村町内の有志が中心となり「むらの新資源研究会・山奥組」が設立されました。

名称の由来と体制

会の名称は、農山村（田舎）を悲観、卑下することなく、それを資源（新たな価値）と捉えて強くアピールすること、また旧宇和島藩政時代に野村町の一部を「山奥組」と称していた歴史を踏まえ、「むらの新資源研究会・山奥組」としました。「むら」は、農山村地域社会を表しています。

平成20年3月現在の会員数は約130名で、西予市内の会員約80名のほか、松山市方面や東京・関東地方など市外の会員も多数参加しています。また活動のエリアは、おおむね旧野村町の範囲としています。

山奥組の活動

山奥組では、取り組みテーマごとに4部会を設置し、活動しています。



原木しいたけ体験教室

●第1部会「環境・生物資源」では、野村町の中心部に近い自然林を所有者から借り受け、「里山保全の森づくり」の拠点として活用しています。林内の雑木や放置竹林の整理、樹木銘板の設置、原木シイタケ体験教室を開催するとともに、森の植生調査報告書「十文田の森の植物」を発行しました。

また、昨年度は、郷土の自然遺産である巨樹・巨木を調査し、「野村の巨樹91選」「野村の巨樹案内マップ」を発行、市内の学校や関係機関・団体に配布しました。



巨樹・巨木調査

●第2部会「地域農業・農産加工」では、地域の伝統作物の復活と美味しい農産物づくりを目指し、クリ、キビ、アワ、モチ麦等を試作しました。

また、地域産品の販路拡大を図るため、都市部の会員を中心に、溪筋地区の米と野菜をメインとする「ふるさと宅配便」事業を開始したところです。

●第3部会「伝統文化・伝承技術」では、地元の竹細工・竹工芸の技術伝承者を講師として、「竹工芸講習会」を開催、貴重な伝統文化・技術の伝承に努めています。



空き家活用・小松山荘修復活動

●第4部会「交流・人材育成」では、惣川地区（四国カルストの麓）にある空き家を借用した「田舎暮らし体験施設・小松山荘」を開設、農山村体験・交流の場として活用を図っています。

西予市も合併して4年が経ちました。山間地域の過疎・高齢化はさらに進み、いわゆる「限界集落」が増大しています。私たち山奥組は、今一度設立時の趣旨に立ち返り、こうした農山村地域の維持・存続のため、ふるさとに夢と活力を取り戻すために頑張りたいと思います。



里山自然の森づくり

全国大会に向けて

私たち山奥組では、本年11月の「地域づくり団体全国研修交流会・愛媛大会」で第4分科会「農山村（むら）に夢と活力を！」分科会を担当します。山奥組の活動をベースに、「限界集落の現場からふるさと再生と地域の元気づくり」について、また、地域産業や文化資源など、多様な地域資源の活用、農山村地域の維持・存続問題などについて、全国の仲間と語り合いたいと思います。

全国の皆さん、西予市「第4分科会」でお待ちしていますので、ぜひご参加下さい！